



NISHI EYE HOSPITAL

西眼科だより 第15巻4号

(季刊誌)

2013年11月発行

編集責任者：倉橋美雪

Nishi Eye Hospital

西眼科病院 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 4-14-26 TEL: 06-6981-1132

〈ホームページ〉 <http://www.nishi-ganka.or.jp>



老視治療 最前線

老視とは、遠くを見たり近くを見たり、自由にピントを変える力が衰えることによって起こるもので加齢と共に進んでいきます。当院における最新の「老視治療」をご紹介します。

フェムトセカンドレーザー白内障手術

白内障のある方に当院では最新のフェムトセカンドレーザー白内障手術を導入しています。水晶体囊の前面を真円に切除する事が可能で 眼内レンズを水晶体囊の中心に移植でき、レンズの偏位や傾きを最小限にする事ができます。また水晶体の分割も可能で、超音波乳化のエネルギーを大幅に低減する事ができ、眼の負担が少ない方法です。より質の高い良好な視機能が得られます。日本では厚生労働省にまだ承認されておられませんので「自由診療」となります。

プレミアムレンズ《老視矯正眼内レンズ》

白内障のある方には、現在、次のような眼内レンズを使用して「老視治療」を行っています。

★多焦点(3重焦点)眼内レンズ tmlOL

現在ヨーロッパでは主流になりつつあるレンズです。遠近両用(2重焦点)の眼内レンズを更に進化させ、中間距離(50cm~1m 程の距離)にもピントが合う多焦点眼内レンズ(3重焦点眼内レンズ)を導入しました。日本では厚生労働省にまだ承認されておられませんので「自由診療」となります。非常に良好な視機能が得られています。

★多焦点(遠近両用)眼内レンズ mlOL

近くにも遠くにもピントが合う遠近両用(2重焦点)の眼内レンズです。当院で行う「多焦点(遠近両用)眼内レンズを用いた白内障手術」は「先進医療」と

して厚生労働省に承認されています。通常の単焦点眼内レンズと比べ、白内障手術後の生活におけるメガネの必要性が大きく減少します。多焦点眼内レンズの事をもっと知りたい方は当院スタッフまでお尋ねください。適応・費用・生命保険適応の点も含めご説明し、ビデオ(10分)もご鑑賞いただけます。

当院では、通常の「単焦点眼内レンズ」か「多焦点(遠近両用)眼内レンズ」か、または「多焦点(3焦点眼内レンズ)」かを選択していただく事ができます。

★追加挿入型 多焦点(遠近両用)眼内レンズ Add-On

既に白内障手術を受けられ、従来の単焦点眼内レンズを挿入されている眼に、更にもう1枚 多焦点(遠近両用)眼内レンズ Add-On(ドイツ製)を追加挿入し、遠方近方両方に焦点が合うようにする事ができます。術前術後の診察・検査・手術代(レンズ代含む) Add-On に関わる治療代は全て「自費診療」となります。

ESCRS(欧州白内障屈折手術学会)の報告

年に1度、世界各国から(7000人以上)多くの眼科専門医がヨーロッパに集まり世界最新の眼科治療・眼科技術を公開發表し、検討論議される「ヨーロッパ白内障・屈折矯正手術学会」が2013/10月初旬 オランダ・アムステルダムで開催されました。

本年も西 院長・副院長・悠太郎先生が出席。悠太郎先生の講演「Femto cataract application of femtosecond laser system for cataract surgery in Japanese eyes」が行われ、反響を呼びました。

西 院長はシンポジストとして招待され ①Lens Refilling の現状 ②科学的基礎的な研究によるPCO(後発白内障)の新しい視点についての講演を行いました。更に、学術ビデオ Video Competition 授賞式の審査員として2013年の受賞者(Winners)を発表しました。



悠太郎先生の講演(左)



Video Competition 授賞式